

## 会議録

|         |  |
|---------|--|
| 会議の名称   | 西東京市公民館運営審議会平成20年度第2回定例会会議記録   |
| 開催日時    | 平成20年5月28日（水曜日） 18時30分から20時40分まで   |
| 開催場所    | 田無公民館 第2学習室  |
| 出席者     | <p>会長：野間春二<br/>         副会長：江原ひろみ<br/>         委員：細井邦夫、土田伸行、藤田律、古賀節子、武田雅子、森忠、加藤真理、石橋いづみ、萩原建次郎、上田幸夫<br/>         職員：相原館長、山本館長補佐、神田分館長、山本分館長、玉木分館長、小林分館長、近藤主査、小笠原主査、新井主査、西川主査</p>  |
| 欠席者     | 西嶋剛昭、伊波真貴子   |
| 議題      | <p>(1) 第1回定例会の記録について<br/>         (2) 報告事項<br/>             1. 行政報告<br/>             2. 事業計画書・報告書について<br/>             3. 公民館だより編集室報告<br/>             4. 起草委員会報告<br/>             5. 都公連（大会企画委員会・委員部会）関係報告<br/>         (4) 協議事項<br/>             1. 谷戸出張所の跡施設利用について<br/>             2. 都公連委員部会運営委員の互選<br/>         (5) 事務連絡及び情報交換<br/>         (6) 次回の日程について</p>  |
| 会議資料の名称 | <p>(1) 事業計画書<br/>             1. 障がい者学級（くるみ学級）（保谷）<br/>             2. 手作りパーランクーでエイサーを踊ってみよう（保谷）<br/>             3. まだ間に合う！若い女性のための「ゆかた塾」（保谷）<br/>             4. 夏のわくわく体験教室（保谷）<br/>             5. 平成20年度人形劇フェスタin西東京（田無）<br/>             6. 平成20年度高齢者講座「田無カレッジ」和を求めて（田無）<br/>             7. カレッジ広場（田無）<br/>             8. 谷戸子（やとっこ）やってみ隊 スライムと綿あめをつくろう（谷戸）<br/>             9. 夏休み わがまち探訪ツアー（ひばり）<br/>             10. 盲導犬についてのお話と歩行訓練体験（駅前）<br/>             11. 子どもいろいろ体験教室（駅前）<br/>         (2) 事業報告書<br/>             1. 西東京の歴史を守る（保谷）<br/>             2. 働くお父さんのための「初心者陶芸教室」（保谷）<br/>             3. こども世界料理教室「メキシコ料理」（田無）<br/>             4. 新春コンサート（津軽三味線）（谷戸）<br/>             5. 田無公民館まつり「こども料理教室・お菓子屋さん体験」（田無）<br/>             6. 田無公民館まつり「アニメ上映会」（田無）<br/>             7. 第20回谷戸まつり「まつりでジャズを」（谷戸）</p> |
| 記録方法    | 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録   |
| 会議内容    |  |

## (1) 第1回定例会の記録について

副会長：

記録の修正についての申し出等を確認する。

職員：

訂正の申し出なし。

副会長：

配付の記録のとおりとする。

## (2) 報告事項

### 1. 行政報告

館長：

駅前公民館のオープン式典だが、6月29日（日曜日）の午前10時から行う。式典は1時間程度の簡単な催しを考えている。午後1時から内覧会がスタートし、1時30分から集会室において、おめでとう駅前公民館イベントを実施する。ありがとう住吉公民館実行委員が中心になって行うもので、7団体が出演する予定だ。式典への招待については、人数の関係で正副会長のみとさせてほしい。翌30日も、午前9時から17時まで内覧会を行う。

5月15日に、再開発ビル「ステアビル」管理組合総会が行われた。ビルの使用に関する議案が審議され、全員一致で承認された。

副会長：

質疑を受ける。特に無ければ、以上とする。

### 2. 事業計画書・報告書について

副会長：

質疑を受ける。

委員：

夏休みの対応事業が多いが、子どもたちへの配慮に感謝したい。

保谷公民館の浴衣塾だが、「まだ間に合う」というタイトルは不要と思う。だよりの掲載時には注意してほしい。ひばり公の「わがまち探訪ツアー」の対象者は少年と思うが、講座名に青年期とあるのは疑問、あわせてだより掲載時に注意してほしい。

職員：

「まだ間に合う」だが、8月のこの時期でも間に合う、という意味だ。

職員：

青年期対象とは、予算の名称であり、計画書にのみ掲載するものだ。もちろん、公民館たよりに、青年期とは記載しない。

委員：

「まだ間に合う」という表現には誤解を生じる恐れがあると私も感じていた。掲載には工夫をしてほしい。

公民館として、青年期の対象年齢をいくつとしているのか。その年齢にふさわしい事業の企画をしてほしいと願う。

田無公の対象者や定員の意味がよく理解できない。この講座は、単発事業なのか。

職員：

この企画書は、開催日1日のためのもので、実行委員会は、昨年度から通年で開催していることを学習内容欄にも記載していることで理解してほしい。

計画が年度をまたがったために、実施に関する予算の裏づけが確定した今年度の計画書としたことを理解してほしい。また、細部についてもはっきりしたためにこの時期になった。

委員：

企画書なのだから、これから先のことを書くのが普通なのではないか。

職員：

19年度は人形劇講座を行って、発表まで漕ぎ着けたが、今回は、既存の団体も巻き込んで、前年の実績を元に事業を計画した。

委員：

この企画書は、当日のためという説明だが、講師謝礼は何のために支払われるのか。

職員：

当日の稽古の指導や発表当日の運営について、またプロの演技についても学ぶことが多いと思う。実行委員のメンバーに、実力を付けてもらうための指導も含んでいる。

委員：

19年度にスタートをしているのだから、年度またがりであり、やはりそのときに計画すべきと思う。

職員：

その時点では、発表の日程も確保されていなかったし、実行委員会を続けることで、7月13日の日取りも決定してきた。あくまでこれは、開催日に関しての計画である。主催講座の支援の方法や文化振興に関して新しい試みとして理解してほしい。息の長い援助をしていきたいと思う。

委員：

次年度のための支援ということか。

職員：

種を蒔いたものをどう摘み取るかという発想だと思うが。

委員：

次年度への取り組みという意味が理解できるようにしてほしい。

職員：

企画書の記載の仕方で工夫するよう指導したい。理解してほしい。

委員：

了解した。

駅前公の盲導犬の講座だが、犬の調教には大変な我慢が必要であることをよく理解してきてほしい。現地集合・解散ということだが、駅前公のエリアからは近所だと理解したので、注意して行ってきてほしい。

委員：

今回の計画・報告の中に、今まで行ってきた講座に積み重ねるというタイプのものがある。保谷の歴史の講座と、田無カレッジなどであるが、以前から話しているように、講座には広めることが目的のものと、高めることが目的のものがあると思う。積み重ねるタイプの講座にはスピーディーさが求められるのではないか。加速度的に行うことが重要だ。

職員：

狙上載ったので、尋ねたい。公民館なので、講座は一般的には公募が当然のことであるが、順次高めて行くと、対象者が「初級講座の卒業者」のような絞られたものになってしまうことが予想される。特定の人のみを対象にする講座について、どう感じるか。

委員：

私は特に差し支えないと思う。深めるための講座については、そうしたことが必要かと思う。次のステップを迎えるためには、そのための準備が必要だと考える。

委員：

募集時に『特別枠』を作ってはどうか。

委員：

谷戸の津軽三味線だが、参加者の感想を読んでも関心度が高い。また、方向性欄には、当選基準を設けるような記載もあるが、会場の広さが原因か。

職員：

谷戸であると70人が限度だ。あまり外れる人が多いとなると、地域性の問題が市民からも漏れ聞こえる。近くの人や初めての人に聞いてほしいと思うのが職員の気持ちだ。

委員：

大きい会場のある公民館で行ってはどうか。また、去年の参加者は断ることは出来ないのか。

職員：

去年の名簿も用意できるが、今年は抽選としたのでリピーターを断ることは出来なかった。

委員：

70人の人は満足したのであろうし、また申し込んでくると思う。

職員：

来年度は抽選方法を見直したい。

委員：

駅前公の子どもいろいろだが、住吉公での事業を移転させた工夫の跡は見えるが、調理関係の事業はどうするつもりなのか。2台しかないので大変だと思う。

畑に種を蒔いて、というものもあるが、来年まで待つのか。

職員：

調理台が2台しかないので、アウトドアでの体験を取り入れたりと工夫している。まずはスタートを切って、そのなかで調整させてほしい。職員も見えない部分が多い。しかし、この事業は毎年行いたいと思っている。調理室については、外部の施設のものを借用することも視野に入れている。

委員：

講師以外の5人の方は、その仲間か。

職員：

実名の上がっている講師以外は、別のサークルの人たちだ。まだ計画中の部分も含まれている。

委員：

子ども世界料理教室の方向性欄に、「公民館の方針で」というくだりがあるが。

職員：

館の職員と話し合い、一定の成果を見たので国際理解については別の切り口で行うことを決定した。料理ではないものを考えていきたい。

委員：

調理の伴う講座が終了ということによいのか。

職員：

まつりの中でも、大人と子どもが力をあわせて調理を行うという方向も出ているし、調理室を活用した事業に工夫を凝らしたい。

副会長：

他になければ、終結する。

### 3. 公民館だより編集室報告

委員：

5月17日に芝久保公で編集会議が行われた。5月号のムービールーム柳沢の日程に誤りがあった。また、市民企画事業の掲載記事に、採択案件一覧であることを記載しなかったために、問い合わせが多く出たことは反省したい。6月号の1面は駅前公民館の記事とサークル訪問は「立和会」。7月号は、あらかし公園のチャリティーバザー。8月号は、平和に関する記事として、日本の平和について若者がどう考えているのかを座談会で掲載する予定。武蔵野大の学生に協力依頼している。

そして、現在の公運審ルポの後企画であるが、「公民館と私」というタイトルで原稿を書いてほしい。14文字×38行の分量である。9月号がスタート月で、7月25日が締め切りになる。

委員：

確認したい。そもそもこのスペースは、公運審のために与えられたものか。

委員：

今の前の『つばやき』という企画もよく理解できなかったが、「公民館と私」の『私』とはどういうことを意図しているのか。講座のルポは誰が考えても事後報告であることは理解できた。一回りしたが、続けてはどうか。

委員：

私も『つばやき』はタイトルの意味がよく分からずに困惑した。ただ、コーナーの意図としては、公運審の委員が何をやっているのかよく知られていない、何をやっている人か理解できないということ解消しようということで、市民に読みやすいコーナーを開設した。

委員：

編集委員に企画の意図を確認してほしい。

委員：  
編集会議に方針については一任していることだと思う。

委員：  
『つぶやき』とは後からついたタイトルのことであり、『つぶやき』自体に意図があったのではなく、まずは委員の存在を知らせたいということだったはずだ。

委員：  
12月の昭島大会でも話しが出ていたが、公運審が何をしているのかわからない、というのではまずいと思う。市民と委員をつなぐためにも、記事は掲載続けてほしい。ルポであるとしても書くことが限定してしまうし、取り上げる施設も開催時期の関係で偏ったりもした。そうなることに危惧していた。ただし、今回のタイトルだけでは確かに漠然としていて何を書いたらいいのかを示さないと絞りようがないので、編集室が示したらどうかと思う。

私案だが、公運審の審議の様子を知らせるようなものはどうかと思うが、例えば今月話題になったことを中心に書く、こうすれば市民に理解が深まると思う。具体案を出してほしい。

委員：  
ここまでの議論で、「公運審が見えない」という課題に対して、唯一の広報手段としてスタートしたことは理解してもらえたのではないか。

ただし、『私』だと、個人的な問題ということになってしまうのではないかということへの危惧の意見が出たのかと思う。だとすると、月1回の定例会の様子を知ってもらうための記事がよいのではないかと考えるので、とにかく書いてほしい。

職員：  
ここまでのような議論は、似た意見は編集会議でも出ていた。スペースをうまく活用してほしいことと、時間の関係もあるのでまずは順番だけでも決めてほしい。

委員：  
時間がないので早急に、というのでは理由にならない。議論を尽くさないで拙速になるくらいなら、何回か休止してもよいのではないか。

職員：  
『私』をどう捉えるのかをこの場で議論してほしい。あまり狭めずに、自由に書いてほしいというのが編集室の考えであった。

副会長：  
『つぶやき』は個人的な思いを書いたものであったので、『ルポ』では事業を通して委員の考え方などを書いた。そして、まもなく1回りするので、新しい企画として「公運審の立場」を書けるようなものを考えてほしいということで、先月お願いしたと思う。

委員：  
何をどう審議しているのかを書くということもあると思う。とにかく、続けているのだから途切れさせないようにすべきと思う。

委員：  
ルポのままであると、あまり公民館を利用しない人にすれば興味がわからないのではないか。また、個人的な意見だけでは問題だと思う。委員の活動の記録を書くということでどうか。

委員：

編集会議でも同じ提案があった。しかし、掲載は2ヵ月後ということで、その月の決定事項を載せてもタイムリーでなくなることを理解して書かなければならない。

委員：

話し合っている内容を伝えるという意味では、無駄ではないと思うが。

委員：

編集会議に投げたということで、その方針に従うことで決めてはどうか。

委員：

しかし、ある程度の取り決めは確認してほしい。

委員：

今ここでは、記事を書くということを承認するということが必要なのではないか。

委員：

1順したので内容を一新して続けたいという定例会の意見を受けて、編集室としては考えた案である。

委員：

紙面を割いてもらっているのだから、言いたいことを絞って書くということが必要だろう。委員として考えていることがあるとすれば、それを書くことが必要だと思う。

委員：

スペースを与えられており、タイトルも「公民館と私」ということ。あとは私たち委員が、委員の思いを込めて埋めていくということで考えてはどうか。詳細は、6月の定例会で再度確認してはどうか。

職員：

編集会議においても「公民館と私」というタイトルについてはいろいろと意見が出た。編集室が方針を示して、それに対して意見が加えられるということになると、今回は了解してもらったとしても、1順するとまた同じことが繰り返されるのではないか。逆に、この会議での各位の意見を受けて、編集室が意見調整することが出来ないのか。

職員：

専門会議である「編集会議」の位置づけについては以前にもお話したことがあると記憶している。委員といえども「編集会議」での決定を覆してしまうと、体制が整わなくなると思うが。

副会長：

タイトルは受け入れ、どういう記事を書くのかについて意見をほしい。

委員：

そもそも『つばやき』がスタートしたのも、故奥田委員が書かれていた公民館に関する連載記事の半分を埋めるために順番を決め、後からタイトルを考えたと記憶している。今の記事だって、市民からの反応がどうなのかを知りたい。ただスペースを埋めているということだけはいけないと思う。そして、続けるからには、まずは順番を早く決めることだと思う。そのことを早く決めてほしい。こう言ったからには、まずは私から書くことを約束したい。

内容だが、いくら『私』だからといって、まったくの個人的な感想や事項ではないことくらい見当がつくことだと思う。どうしてもこのタイトルが気に入らないというのならば、編集会議で再検討してもらってもよいと思うが、まずは議論を前進させてはどうなのか。今月なら、入稿まで2ヶ月あるので、記事を考える時間は十分ある。

副会長：

進行に手間取ったことをお詫びする。『公民館と私』というタイトルで入稿することによろしければ拍手で確認してほしい。

(拍手で確認)

特に異議はないので、順番を決めたい。森委員が9月号に入稿で連載開始し、10月が石橋委員。その後は名簿順としたいがいかがか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

それではそのように決する。

以上で、終結する。

#### 4. 起草委員会報告

副会長：

座長から概要報告を受ける。

委員：

5月22日に、子育てわいわいプランの策定に携わった担当職員に来館してもらい、プランの意味や公民館に期待することなどの話しを聞き、懇談もした。

6月の定例会には、これまでの議論の中間報告を提出することで合意している。会議の様子を配付しているので、中間報告の前に意見のある人は、事務局まで書面で報告しておいてほしい。

副会長：

以上で、終結する。

#### 5. 都公連大会企画委員会報告

副会長：

企画委員の報告を受ける。

委員：

5月の企画委員会では、大会テーマについて確認した。「地域と歩く公民館」と決定し、大会趣旨文については、今後の企画委員会で調整する。課題別集会は、5分科会になる。既に報告したが、今年の都公連大会は分科会中心で行い、全体会に代わるものとして課題別集会后に報告集会を行うことに決めた。会場の定員の関係で、各分科会からの報告集会への参加者数を決めることになる。

副会長：

特に質疑が無ければ、暫時休憩する。

19時58分休憩

20時03分再開

### (3) 協議事項

#### 1. 谷戸出張所の跡施設利用について

会長：

前回以降、館側がつかんでいる情報について報告を求める。



職員：

谷戸出張所については、平成21年5月1日までは業務を行うことになっていることだ。その後、5月7日からはひばりヶ丘の駅前で新しい出張所としてスタートする。移転後の谷戸の跡施設に関する活用計画については、庁内では白紙である。活用については、庁内の検討委員会での議論を踏まえて結論を導くとのことで、去年の12月の市議会において質問に答えている。

谷戸出張所は、都から公民館、図書館、出張所の3つの機能ということで、行政財産の使用許可を受けて無償で借りている。出張所の広さは、105平方メートル、市民課の職員が、昨年12月に都に出向いて、市の計画について説明し、庁内での議論がまとめれば出張所とは別の用途で利用したい旨についても打診したそうだ。都としては、出張所として貸し出すために作っているが、用途を変更するということがなれば、有償にはなるが引き続き活用することは可能との回答を得ている。

庁内の検討会議であるが、私が問い合わせたところでは、企画政策課が中心になって、6月以降に立ち上げる予定との回答を得ている。

また、市民課が出張所の建替えに関して市民にアンケート調査を行ったところ、谷戸出張所の利用者の回答には「地域の人が使え施設にしてほしい」「谷戸公民館として使ってほしい」というような意見があり、保谷庁舎でのアンケートには「サークル活動の出来る場」「ハローワーク」「子どもの遊び場」「市民の利用できる喫茶コーナー」というような意見が出ているようだ。

会長：

公運審としては、館長が何かしらのアクションを起こしてほしいと願っているの、それにふさわしい文書をまとめたい。文案については検討中なので、6月定例会までに調整の上、館長に提出したい。

事務局に確認したい。こういう場合、要望書と意見具申ではどちらがふさわしいのか。

職員：

特に決まりはないが、社会教育法の規定による館長の諮問機関でもあり、館長に対して意見を述べる立場にもあり、「意見具申」とするのが一般的かと思う。

会長：

職員からの報告に対するの質疑はあるか。

ないようなので、以上で終結する。次回に案文を審議して、提出できるようにしたい。

## 2. 都公連委員部会運営委員の互選

委員：

委員部会の運営委員を引き受けたが、今年の運営委員会は前年度と異なり、第4水曜日の午後3時30分から、多摩市の公民館で行うことになったため、仕事との関係で出席できなくなった。次回は、6月25日である。大会の企画委員は継続するが、運営委員との併任困難になったので、互選をお願いしたい。

なお、第1回の委員研修会及び全体会は、7月13日（日曜日）の稲城市で決まっていることを申し添えたい。

会長：

互選を議題とする。適任者を推薦してほしい。

委員：

会長にお願いしたい。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

会長：  
他に意見がなければ、お引き受けしたい。  
次回の運営委員からは、私が出席する。

#### (5) 事務連絡及び情報交換

会長：  
事務局から報告がある。

職員：  
関東ブロック大会の要項の写しを配付した。正式には後日参加の意思を確認するので、分科会等を決めておいてほしい。

先月話題になった、予約システムの課題を整理した。先日、加盟するすべての課が集まって連絡会議を行った。公民館と共通の課題を述べる課もあれば、有料施設は別の課題もあり、結果として今後は公民館と図書館がグループを作って課題の整理を行い、個別対応することになった。当面の課題は、利用目的の整理かと考える。

委員：  
各利用サークルには、統計上ナンバーが振られている。これを活用すれば、どこでどういう種類のサークル活動をしているのか、またはコンピュータ上で、サークル情報を提供することなども可能なのではないか。

職員：  
現在のシステムは、部屋の予約をすることのために構築している。部屋を予約するために公民館に行かなければならなかったことが、今はweb上でどこからでも予約可能になった。次には、サークルの情報をwebに公開することも検討すべきなのかもしれない。幸いにも、西東京市のホームページは、国から賞をもらうほどのものであり、要望に上がったことをどこで検討すべきなのか、考えたい。

会長：  
システムについて特になければ、次は駅前公民館の開館イベントについて、実行委員から報告がある。

委員：  
6月29日の「おめでとう駅前公民館」イベントについて、実行委員の立場で報告したい。ぜひ、当日は見学に来てほしい。この実行委員会は、「ありがとう住吉公民館」実行委員の有志が引き続き立ち上がった。住吉公民館に比べるといろいろと制約の多い、定期利用には難しい場所にあるが、近隣市民としては期待の大きい施設でもある。何とか盛り上げたいという気持ちで委員会を立ち上げた。

5月14日に7団体、250人の参加という参加概要が決定し、時間も午後1時から4時ということにした。会議当日は館長も出席し、出演する市民への駐輪場の配慮などを確認した。プログラムについては、今後駅前担当職員と調整していきたい。

今回は、6月17日に予定しており、プログラムについての詳細や駐輪についても再確認することになっている。6月27日には館内で最終確認することに決まっている。狭い施設なので、出演者の控室も用意できないが、遺漏なきよう準備したい。また、70人定員の部屋であり、出演者のスペースを取ってしまうと、客席を何席用意できるのか、最終的に確認したいと思っている。

#### (6) 次回の日程について

6月25日(水曜日) 18時30分 於:田無公民館 第二学習室

会長：

他に意見がなければ、閉会とする。